



12月2日～3日、北海道恵庭市に連合会リーダー研修に行ってきました。毎年3回シリーズで実施している研修で、私は初めての参加になりますが、今年度1回目より参加している約20名(半数は高齢協より参加)に加えて、担当役員の稲月さん(福岡高齢協)、大津さん(無茶々園)、藤井さん(愛知高齢協)や連合会古村理事長、田嶋専務が参加しました。

初日はセンター事業団恵庭地域福祉事業所の視察・研修を行いました。憩いの家の利用者と共に地域の困りごとを解決する「あいよ」という生活支援グループや、「みんなの家」という小さな子どもがいる親子、障がい者、高齢者の憩いの場所ができ、地域住民が主体となって力を発揮している場面に参加者一同、驚きと共感を覚えました。その実現までに、佐藤所長をはじめとした事業所組合員が地域活動に積極的に参加し、地域住民の信頼を得ていったことや、正面から地域課題を一緒に取り組もうと熱心に伝えていることなど、参加したリーダーは多くを学びました。

2日目は映画「さとにきたらええやん」を視聴し、大阪市西成区釜ヶ崎で多様な子どもの受け皿を作る荘保さんの活動と、各自が研修に来る前に各地域での子ども食堂等に参加したことについての意

見交換を行い、持続可能な地域づくりに向けた協同組合としての役割を全体で考えあいました。高齢協も含め、多様な団体のリーダーが交流することは非常に有意義であり、次回は埼玉県の深谷で、今年度最終となる研修会を開催する予定です。

今月も労協連の加盟組織まわりを継続して行っています。遠賀・粕屋・石巻の昔からの失対の流れから剪定・緑化・清掃を中心に続く地域事業団、会社の倒産から労働組合による争議を経て労働者による自主経営に挑戦し労働者協同組合になった大分自交労協を訪問し、歴史や現在の活動や課題についてお話を伺っています。共通課題は仕事の減少と組合員の高齢化・減少であり、これまでの延長では継続が難しいことを伺いました。

全国代表者会議が12月15日に開催され、国連が提唱するSDGs(持続可能な開発目標)の紹介があり、いのちの「多様性」と社会の「持続性」に向き合う協同労働運動の全面的発展が提起されました。全国での多様な実践を会議・研修で学び、地域で地道に挑戦することの重要性と、近隣地域での労協連グループの連携の重要性を感じました。年明けからの事業計画作成に盛り込むことを検討し、実行に移していきたいと思います。